

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ9-2	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochrane Database Syst Rev.	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ	CD003412	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	The Cochrane Collaboration
	その他著者 1	Bong J	同上

	その他著者 2	Perkins W	同上
	その他著者 3	Williams HC	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
レビュー研究の6項目	目的	基底細胞癌の治療法をシステマティックレビューする	
	データソース	Cochrane Database	
	研究の選択	病理学的確定診断がついた報告のみを選択	
	データ抽出	報告の抽出は二人の独立したレビューアーにより行った	
	主な結果	手術と放射線治療を直接比較したランダム化比較試験は1件のみ 手術後と照射後の局所再発のオッズ比:0.09 (95%CI 0.01-0.67)で手術療法が優れている(手術:1/174, 照射:11/173) 手術と放射線の整容性の比較(良好 手術 87%>照射 69%) 放射線治療後は色素沈着と毛細血管拡張が出現(65%/4年) 凍結療法は便利で安価(手術との1年後の局所再発率に差なし) オッズ比:0.23 (0.01-6.78) 放射線治療と凍結療法で1年の局所制御率は照射が有意に良好 オッズ比:14.80 (3.17-69)	
	結論	多くの試験はリスクの低い症例を対象とした報告であるが、手術と放射線治療が最も有効であり、再発率が低い。特に手術による局所制御率はより高い。他の治療も有用であろうが、手術との有用性の比較がなされていない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井 洋一	

	レビューワーコメント	コクランレビューで信頼度は高い。凍結療法が手術療法と局所再発率に差がないという報告のある一方、放射線治療との比較では優位に劣るとされている。整容も考えると、現時点では手術療法が最も有用と考えられる。 レベル I
--	------------	---